

9月7日（木）、3年1組で国語科の努力点公開授業が行われました。

単元は「よく見て、話し合おう」です。この単元では、まず、写真に写っているものから気付いたことを、友達と共有できるようにします。そして、3～4人のグループで写真のキャッチフレーズについて話し合います。

初めに、写真の見方を確認しました。普段なら目で見て分かることだけを話しますが、今回は、五感を使います。つまり、視覚だけでなく、嗅覚、味覚、聴覚、触覚の五つの感覚を意識して写真を見るのです。「例えば…」と教師が「餅つき」の写真を提示しました。「『ペッタンペッタン』という音が聞こえそうなら、黄色の付箋に書きます」と、説明しました。（におい・味はピンク色、音は黄色、見た目は緑色、触った感じは水色の付箋に書きます。）



【例を示す教師】

次に、写真が配られました。グループごとに写真が異なり、種類は七つあります。まずは一人一人が五感を使って気付いたことを付箋に書いていきました。児童は「パチパチ」や「トロロリ」など、写真を見て感じたことを短い言葉で次々と付箋に書きました。中には付箋が足りなくて追加する児童もいました。



【言葉を付箋に書く児童】

その後、グループになり、それぞれに気付いたことをワークシートに貼りました。似ている言葉と違う言葉で分け、まとめました。そして、それぞれの写真のキャッチフレーズを考える活動に移りました。付箋のよさは、何度も貼り直せることです。右の写真のように、付箋を何通りも組み合わせることで考えやすくなります。児童は、グループで気付いたことの中で、キャッチフレーズに使用したい言葉を選び、組み合わせることでキャッチフレーズを考えました。



【付箋を貼り直す様子（上）と  
組み合わせた付箋（右）】



最後に、グループで考えたキャッチフレーズを発表しました。「ほのおはパチパチあつそうだ」や「おなべはグツグツしていておいしい」など、五感を使ったキャッチフレーズが多く発表されました。「ふわふわいちごシロップ味」のように、お店の看板にも出せそうなキャッチフレーズもありました。



【発表する児童の様子】

付箋を使うと、話し合いが活発になります。それは、「これとこれをくっつけてみよう」と、言葉でのやり取りだけでなく、操作活動が伴うからです。特に、子どもたちは操作活動を好むので、付箋を使った話し合いは有効だと考えます。